

2019年度事業報告書

2019年4月1日～2020年3月31日

特定非営利活動法人こども∞感ばにー

1.年間の活動のまとめ

「子どもの笑顔が地域のなかで育まれるまちに」を理念に、(1)すべての子どものための居場所（あそび場）に関する事業として「プレーパーク」「フリースクール」、そして2017年度から始動した「地域・民間団体との連携」は、今年度大きな進歩を遂げました。

渡中学区WWIでは、渡波中学校区3校と各PTA会長、民生委員や石巻市社会福祉協議会が役員となり、子ども主体の学校行事のサポートや地区防災の体制づくりに加わるなど、地域が積極的に地区の子どもの見守りをしていく体制を作りました。

また、2017年に改訂された法律、教育機会確保法を基に、宮城県の不登校児童生徒の居場所に関する施策を見直すために、多様な学びを共につくる・みやぎネットワークを県内の民間団体7団体で設立した。県議会議員や宮城県教育委員会との勉強会を実施した結果、調査委員会が立ち上がり、議会で不登校問題が取り上げられ、民間団体への視察が開始するなど、官民が連携して動き出すことができた。また、2017年に設立した石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会では、4団体の子ども支援団体が主体となり、石巻市内に子どもの居場所を増やすための取り組みとして、子どもや保護者の意識調査やプレイワーク研修の企画や、2020年度のまちづくり懇談会での提言に向けた準備を行った。

(2)子育てサポートに関する事業である「未就学児あそび場“のびちび”」では、保護者が主体となり、「黄金浜プレーパーク母親の会」を設立され、プレーパークの必要性記載した要望書の提出や市議会議員を招いて、地域住民との座談会が開催されるなどの市民活動が誕生し本会はそのサポートを行った。

このように、これまで本会が実施してきた各事業に加え、多岐にわたる個人や団体、機関と連携して活動することにより、理念実現に近づくことができた一年と言える。

組織運営については、2月に黄金浜ちびっこあそび場で開催した餅つきイベント時に事故発生をきっかけに、緊急時マニュアルの見直しや研修の強化、近隣の住民とお話し会など、本会の事業展開方法について再考する機会となった。

また、スタッフの人材育成に力を注ぐとともに、行動指針作成や資金調達合宿、認定NPO法人化への準備など、2021年度以降の運営を見据えた話し合いを繰り返し行ったが、3月新型コロナウイルス感染症拡大による事業の停止や変更など活動に大きな変化が起こり、今後の組織運営に課題を残したまま一年を終了した。

《重点目標》

●黄金浜ちびっこあそび場は常設、鹿妻プレーパークは移動式のあそび場のモデル化を図り、活動の継続に向けた行政への働きかけを行う。

特に黄金浜ちびっこあそび場は継続を希望する声が利用者から聞こえていることから、地域と連携しその必要性を報告書にまとめ行政に伝える。

- 石巻市内に子どもの居場所を増やすための取り組み 石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会は、10年後の「1中学校地区に1か所の居場所設置」目標に向けて、代表の再選任や事務局の新体制、賛助会員制度などの体制の見直しを図る。

本年は新規プレーパーク開設のサポートや地域住民の意識調査などから、住民の声をまとめ行政に届け連携を深める。

- 不登校児童生徒の居場所に関する意識改革200名を超える石巻市の不登校児童生徒の居場所事業に関する取り組みを、行政と協働で構築する。

そのためにも、多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク（2019年4月時点県内6団体で構成）で不登校児童生徒や保護者の意識調査や先進事例の視察や研修などを行い、行政に当事者の声や事例を届けることで連携を深める。

《事業内容》

①すべての子どものための居場所（あそび場）に関する事業

◆プレーパーク事業

- 黄金浜ちびっこあそび場

【目 標】

2021年度以降も活動を継続していくために、地域の人と連携体制をつくる。また、あそび場に来所する子ども・親・地域の方の声を行政に届ける。

- ・開催回数：145回
- ・利用者数：子ども延べ3,000名、大人1,500名 合計4,500名

【実施内容】

- ・開催日時：土・日曜日10：00－16：00、金曜日15：00-17：00 開催数：138回
- ・スタッフ2名配置
- ・環境整備：チビプレハブ(図書館)整備
- ・イベント：8回
 - 地域座談会(5月)：大人15名（父母、黄金浜地区会長）
 - 子どもの日祭り(5月)：子ども22名、大人16名
 - どろんこ祭り(6月)：子ども21名、大人10名
 - ウォータースライダー祭り(7月・2日間)：子ども60名、大人24名
 - 段ボールドラム(7月・共催イベント)：子ども18名、大人27名
 - 山形南高校夏祭り(9月)：子ども60名、大人70名
 - 自転車発電機小屋&芋煮会(12月)：子ども40名、大人23名
 - 節分&餅つき大会(2月)：子ども50名、大人20名
 - 地域のお話し会(3月)：大人5名
- ・住民交流イベント：納涼会（9月）：参加者約40名以上
年忘れ会（12月）：参加者20名以上
- ・地域連携：小中学校と子どもに関する情報交換

黄金浜げんき会、保護者の自主的な活動のサポート

- ・ 広報：上記イベントチラシを渡波小学校に配布
SNS、HPでイベント告知と活動報告
黄金浜ちびっこあそび場のパンフレットデザイン完成

【成 果】

- ・ 来所数：延べ2,716名、大人延べ1,160名、合計3,876名（親子433組）
- ・ 子ども会や自治会とつながり「黄金浜げんき会」を結成、海の清掃活動やBBQを協働で開催
：黄金浜自治会3名、子ども会約15名、地域住民約15名参加
- ・ 地域座談会「黄金浜ちびっこあそび場ってどんなところ？」をテーマに実施（参考資料①参照）
- ・ 石巻市の子育て未来プランのパブリックコメントに保護者や子どもたちの声をまとめ提出
- ・ 教育機関との連携・情報交換 渡波小学校3回、渡波中学校7回
- ・ 昨年以上に常連の地域住民が不登校の子どもや家庭に課題を抱える子どもの受け入れ、プレーパーク以外でも、買い物に連れ出し個別相談が行われ、地域での見守り活動が図れた。
- ・ 地域住民が子どものおやつ作りや、小学生が作ったおやつを未就学児に分けるなど、相互の関係性が構築され、世代を超えたつながりと家族のような光景が多くみられた。

【来所者のエピソード】

- ・ T君（中学一年生/男子） 来所数 73回（75%）
小学生の時から来所している彼は、家庭に事情を抱えており、一日3時間は勉強や週末の帰宅時間も決められている。料理好きで、家ではできないお菓子作りをいつもしている。
いつもスタッフの横に来ては学校やゲームの話をしたり、普段家ではできないことをのびのびとしている。家族の相談もしばしばあるが、スタッフに話し終わると、また楽しそうに遊び始める。
- ・ A君（小学4年生/男子）
来所当初はスタッフに敬語を使っていたが、今ではそれもなくなり、チャンバラや学校での出来事を話し、時には恋愛相談をするほど信頼関係を築くことができた。
母子家庭のため、家に帰っても一人で寂しいからか、いつもプレーパークの片付けを手伝い最後まで残る。頻繁に「家まで送って」と甘え、スタッフが送っていくととても嬉しそうに笑う。

【課 題】

- ・ 人員の確保（ボランティア）
継続的に関わってくれるボランティア（特に女子）の確保が難しい。

●鹿妻プレーパーク“ひがこー”

【目 標】

子どもの保護者とともに遊びの環境をつくり、地域(自治会)と連携しながら開催の継続を視野に
入れた運営体制を構築する。

- ・ 開催数：50回
- ・ 利用者数：子ども延べ1,500名、大人375名 合計1,875名

【実施内容】

- ・ 毎週水曜日 15：00－17：00 開催数：49回

- ・スタッフ2名配置
- ・イベント：一日あそび場（7月・12月）
- ・プレーパーク意識調査：子どもと保護者へのヒアリング
- ・広報：ひがこー新聞 700部/月（2地区で回覧、学校・幼稚園で配布）

【成 果】

- ・来所者数：子ども延べ1,124名、大人延べ230名 合計1354名（親子144組）
- ・プレーパーク意識調査（参考資料②参照）
- ・子どもの保護者がスタッフ同様、カマドで火をたく子どもの見守りや準備、片付けをなど自主的な動きは継続してみられた
- ・子どもに関する教育機関との情報交換 鹿妻小学校 5回

【来所者のエピソード】

- ・今年から毎週来所し始めた子どもに、『プレーパークの何が楽しいか？』聞いたところ、「いろんな遊び道具がある。火を焚いたり、自分の好きなことが自由にできる。道具だけじゃなくて、スタッフがいるから楽しいんだ」
- ・子どもから「開催回数を増やしてほしい」と何度もお願いされている。
- ・「お年寄りが多い鹿妻地区で、子どもの笑い声が聞こえてくるのは素敵なことだから、協力できることはしますよ！」と町内会長さんから言葉を頂いた。
- ・卵1個をポケットに入れて来所し、目玉焼きを作る日もあれば、ホットケーキの材料を友達と手分けして持ちより「家では出来ないから楽しい」と言いながら共同でホットケーキを完成させていた。

【課 題】

- ・保護者以外の地域（自治会）との連携づくり
- ・高齢者などの地域住民の来所

●新規プレーパーク開設サポート

【目 標】

プレーパーク開設を希望する地域住民のサポートを行う。今年度内に地域主体で開催できるよう、地域調整、安全管理、プレイワークなどの知識を伝承する。

- ・開催地と開催予定回数：石巻市沢田 9回/年（準備会議2回）
- ・利用者数：延180名

【実施内容】

- ・スタッフ2名配置
- ・沢田プレーパーク（スーパー森ランド）：開催4回 打合せ3回
 沢田住民と天津神大瀧神宮を中心としたグループ 2名
 地域の高齢者も巻き込んだプレーパーク実施を試みたが、高齢者参加は少なかった。
- ・牡鹿プレーパーク 打合せ・プレーパーク開催場所視察 3回
 のびちび利用者と牡鹿在住の保護者を中心としたグループ結成 3名

【成 果】

- ・ 沢田プレーパーク参加者：延91名
- ・ 牡鹿半島には、保護者が集まり子どもを遊ばせるコミュニティがないため、地域だけでなく、市街地からも親子を呼び、地域活性化図りたいという、当事者性の高いグループが誕生した。

【課 題】

- ・ 3月は、新型コロナウイルスにより、活動を見合わせることになり、進んでいた企画も保留となり、次年度の体制立て直しが必要となった。

◆フリースクール事業

●フリースクール“ぼはっく”

【目 標】

本会の活動地域である渡波中学校の不登校生徒(約 10 名)すべてが、安心して過ごせる居場所があるための働きかけを行う。

- ・ 開催数：95回

【実施内容】

- ・ 開催日時：毎週月・木曜日 10：00－16：00、 開催：99回
- ・ スタッフ2名以上配置
- ・ 日常の活動：海遊び、スポーツ、ものづくり、料理、DVD鑑賞、学習など
- ・ イベント：お泊り会 9月/1泊2日/ぼはっく拠点
- ・ 新型コロナウイルス：感染防止対策の徹底を図り、活動を継続

【成 果】

- ・ 登録者数12名のうち、新規4名。アウトリーチ1名
- ・ 利用者数：延べ357名
- ・ 1名の自立支援（アルバイト雇用）
- ・ 2名が高校進学決定

【来所者のエピソード】

- ・ 家庭に課題を抱えるHさん（中学3年生女子）
6月に登録当初は表情が固く感情を出さなかったが、少しずつぼはっくやスタッフに慣れ自己主張ができるようになった。卵を割ることもできなかった彼女だが、今は自分でグラタンを作りたいという。少しずつ自分に自信が持てるようになった証拠に、自分の将来や進路を考えられるほどに成長した。
- ・ 小学1年生から約9年間不登校だったKさん（16歳女子）が今年、3年間のアウトリーチの結果登録した。長年関わってきた虐待防止センターも驚き、一緒に喜んでくれた。1月の登録当初は、足し算もできなかったが、丁寧に教えることで、今は九九を覚えることができた。勉強することが楽しくて、いつも家で自主勉しぼはっくに来所。答えに○をつけると満足気に笑っている。

【課 題】

- ・ 石巻教育委員会や各専門機関との連携体制
- ・ フリースクール“ぼはっく”の周知

◆地域・民間団体との連携事業

●石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会

【目 標】

石巻市内の新規プレーパーク開設サポートを行うと同時に、子どものあそび場の必要性を行政に伝え、市内に子どもの居場所を増やすための取り組みを行う。

【実施内容】

- ・スタッフ1名配置（田中）
- ・定例会議 12回（組織体制、事業計画など）
- ・子育て支援課とのプレーパーク意識調査の打ち合わせ
- ・プレーパーク意識調査：焚き火の会2回、プレーパークひがこーでの来所者ヒアリング1回
- ・プレイワーク講座開催準備（2020年4月実施予定）
- ・まちづくり懇談会参加のための提案書作成・提出（2020年7月にプレゼン）

提案内容：移動式プレーパーク事業と放課後子ども教室の一体型居場所づくり

（参考資料③参照）

【成 果】

- ・昨年度のまちづくり懇談会で提案した「移動型プレーパークへの助成事業」が予算化し一般公募された
- ・プレーパークに関する意識調査
 - 5月 第1回焚き火の会（参考資料④参照）
 - 9月 第2回焚き火の会（参考資料⑤参照）
 - プレーパークひがこー（参考資料②参照）

【課 題】

- ・プレーパークの認知度を上げる

●多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク

【目 標】

「教育機会確保法の理念を基に、宮城県内の民間の団体・教育委員会・行政などのネットワークを構築し、子どもが選択できる多様な居場所が保障される地域社会をつくる」を目的に、不登校支援団体が連携し、行政と協働を図るための体制づくりをおこなう。

【構成団体】

7団体：ふとうこうカフェ in みやぎせんたい（仙台・岩沼）、特非）まきばフリースクール（栗原市）、特非）こども∞感ぱにー（石巻市）、Social Academy 寺子屋（大崎市）ほっとスペースわか（登米市）、大崎・不登校を考える会（大崎市）、一社）フリースペースつなぎ

【実施内容】

- ・スタッフ2名配置
- ・定例会議13回確（組織体制づくり）
- ・設立イベント（6月）講演会とワークショップ 場所：大崎市

講演内容「千葉フリースクール等ネットワークの取り組み」講師：前北海

- ・教育機会保法に関する勉強会（12月） 場所：県議会会館
- ・フリースクール交流イベント スノーボード教室（1月/主催：CHILL）場所：岩手県
- ・情報発信：ホームページ、フェイスブック作成

【成 果】

- ・団体設立イベント：参加者 58名（不登校児童生徒の保護者、民間団体、市議会議員、県議会議員など）
メディア掲載：2社
- ・教育機会保法に関する勉強会：県議会議員25名、宮城県教育委員会2名
- ・県議会議員内で、不登校調査委員会発足
- ・3月の県議会で、畠山和義氏が宮城県の不登校に関する要綱の見直しを県教委に要望。受理される

【課 題】

- ・組織運営費の捻出方法

●渡中学区WWI(わっしょい渡波委員会)

【目 標】

渡波中学校区の子どもたちが地域に見守られ元気に育つために、子どもも含めた地域のみながつながり地域をつくることを目的に5月に発足し、今年度は団体の体制づくりと地域への認知度を高めていく。

【構成メンバー】

18名：渡波中学校校長・教頭・教員、渡波小学校校長・教頭、鹿妻小学校校長・教頭、各校PTA会長・顧問、渡波地区民生委員、渡波地区主任児童委員、石巻社会福祉協議会、かづま地域食堂

【実施内容】

- ・定例会議8回（組織体制づくり、事業計画）
- ・地域活動サポート： 渡波中学校廃品回収（10月）場所：渡波中学校と渡波中学校区
防災訓練「炊き出し食堂」（11月）場所：鹿妻小学校

【成 果】

- ・団体趣旨に沿った活動が活発化し、構成メンバーの当事者性が高まる。
- ・渡波中学校廃品回収 中学生約30名と自治会との連携活動により、約35000円の売り上げ。渡波中学校のボランティア活動費となる。
- ・鹿妻小学校 PTAと協働で防災訓練「炊き出し食堂」実施し、全校児童にうどんの提供
PTAとの関係構築

②子育てサポート事業

◆プレーパーク事業

- 未就学児あそび場"のびちび"

【目 標】

環境整備や情報発信、スタッフのスキル向上を行い、子育て中の親子が利用しやすい地域の居場所づくりを行う。

- ・開催回数：145回
- ・利用者数：子ども延べ1,730名 大人延べ：1,370名 合計3,100名 平均10組

【実施内容】

- ・毎週火・木・金曜日 10：00－14：00 開催数：146回
- ・子育てワークショップ：17回
 - 子どもに伝えたい優しい食のおはなし会 9回 参加者：延41名
 - リラックスヨガ 1回 参加者：5名
 - パパママリラックスマッサージ 3回 参加者：延28名
 - 親子で木のスプーン作り 1回 参加者：5名
 - 亀山さんのお漬物教室 1回 参加者：8名
 - お正月飾りの餅花を作ろう 1回 参加者：6名
 - やまちゃんのおさかなさばき教室 1回 参加者：8名
- ・広報：月間スケジュール作成・配布 900部/月（黄金浜2地区で回覧、子育て支援課、子育て支援センター、子ども支援団体、近隣店舗などに設置）
SNS、HPでイベント告知と活動報告

【成 果】

- ・利用者数：子ども延べ1,757名、大人延べ1,236人 合計2,993名（親子752組）
- ・9月 子どもの遊びの環境の充実を目的に、保護者が主体となり「黄金浜ちびっこあそび場母親の会」設立。
- ・同会が11月に市長への要望書提出
- ・同会が1月に座談会を実施：16名（市議会議員5名、前衆議院議員1名、地域住民10名）
本会はそのサポート役を務めた。

【利用者エピソード】

- ・子育ての悩みを話しながら泣いた母親に、他の母親達が優しい言葉で励ましていた。
- ・初めて来所した母親が「誰が誰の子かわからないくらい混ざり合っていていいね」
- ・のびちびでガキ大将の3歳児が、初めて来所した4歳児とサッカーボールの取り合いになった時、4歳児の母親は止めようとしたが、3歳児の母が「大丈夫。見守りましょう」と声をかけていた。子どもの可能性を信じる母親の姿があった。

【課 題】

- ・ワークショップの参加人数が3組程度と少なく、今後の実施を検討
- ・毎月地域に配布するチラシの効果の検証と見直し

●子育て相談

【目 標】

本会の事業すべてにおいて子育て相談を受け入れ、子育て(不登校も含む)で悩む保護者の心の

ケア120件

【実施内容】

- ・相談受付はプレーパークでは随時、そのほかは予約制
- ・プレーパークで子どもを遊ばせながらの「ながら相談」
- ・フリースクールの保護者との面談
- ・個別面談

【成 果】

- ・相談件数 102件
- ・不登校児童生徒をもつ保護者からの相談が増加
- ・虐待を受けて育ったユース（被虐児）や保護者からの相談
- ・子ども支援を行っている団体からの相談
- ・ながら相談数が減少したが、来所人数の減少に関連している。

【課 題】

- ・子育て相談事業の告知方法

③自然体験プログラム事業

◆Ecoキャンプ“自然とともに”

【実施内容】

- ・1回(夏季) 1泊2日 開催地 宮城県気仙沼市
- ・対象 未就学児親子
- ・協力団体 N P O法人浜わらす

【成 果】

- ・参加人数 子ども8名 大人3名（親子3組）
- ・大きな自然に向き合い、子どもたちは思う存分挑戦して大自然を五感で体感することができ、電気、ガス、水道がない経験は、自然の恩恵への感謝につながった。という参加者からの声
- ・防災時に役立つ学びになった。
- ・自然の中で子育てを複数の家族で共有することで、母親が日常的に感じやすい孤立感から解放されたという参加者からの声

【課 題】

- ・開催に当たってのスタッフの体制や、経費の調達方法、告知方法
 - ・事業としての意義は明確にあるものの、費用対効果を十分に検討する必要あり

④社会体験プログラムに関する事業

活動なし

⑤前各号に掲げる活動の推進を図るための啓発及び情報発信と人材育成事業

◆啓発事業

○講座・研修

○組織運営のためのスタッフ研修

【成 果】

- ・ 資金調達・組織基盤強化のための研修：外部研修11回 内部研修5回（延9日）
スタッフ合宿1回（2日間）
- ・ リーダーシップ研修：2日間/大槌町/田中、平井
- ・ ファンドレイジングジャパン2019：2日間/東京/榎谷

○外部人材育成

【成 果】

- ・ 山形南高校生 夏祭り：約30名
- ・ インターン生 1名（6/1～7/24）
- ・ ボランティア受け入れ：延べ108名
- ・ ミライブラリー：市内高校2校にて

⑥その他、本会の目的を達成するために必要な事業

◆主たる活動地域内

【成 果】

- ・ 渡波小学校評議員 定例会議 3回
- ・ 渡波中学校区協働教育協議会会議 2回
- ・ 鹿妻小学校クラブ活動サポート「農村クラブ」：4回/鹿妻

◆石巻市内

【成 果】

- ・ NPO法人こどもにやさしいまちづくり理事 会議8回程度/田中
- ・ らいつコンソーシアム協議委員会議 3回/田中
- ・ いしのまき市民公益活動連絡会議 6回/田中

2 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者	受益者	事業費 (円)
①すべての子どものための居場所（あそび場）に関する事業	プレーパーク事業 ・黄金浜ちびっこあそび場 ・鹿妻プレーパークひがこー ・新規プレーパークサポート	金・土・日曜 水曜 月1回程度	渡波 鹿妻 石巻市内	佐藤・田中・千葉 千葉・平井 田中・佐藤	幼児 ～高校生 延べ 4,288人 地域住民	11,753,393
	フリースクール事業 ・フリースクールぼはっく	火・木曜	鹿妻	千葉・田中・佐藤	延べ1,390人 (290回)	

	地域・民間団体との連携事業 ・石巻のプレーパークと子どもの遊びを考える会 ・渡中学区WWI ・多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク	月1回～2回 月1回～2回 月1回～2回	石巻市内 石巻市内 県内	田中 田中・佐藤 田中・千葉	-	
②子育てサポート事業	未就学児あそび場「のびちび」	火・木・金曜	渡波	平井・田畑	乳幼児～大人 延べ 2,993人 (146回)	3,942,148
	子育て相談	随時	石巻市内	田中	延102件	
③自然体験プログラム事業	Ecoキャンプ“自然とともに”	8/23～8/24	気仙沼	佐藤・平井	11名	238,630
④社会体験プログラム事業	※活動なし	-	-	-	-	-
⑤前各号に掲げる活動の推進を図るための啓発及び情報発信と人材	啓発事業 ・講座/研修 ・講演会	4/1～3/31	宮城県 及び 他県	田中・大森 千葉・平井 田畑・榎谷	-	4,480,576
	情報発信事業 ・会報誌“だんごむし” 4回発行 ・ホームページ改定					
	人材育成事業 ・事業運営スキル向上のための研修 ・組織運営のためのスタッフ研修 ・外部人材育成					
⑥その他、本会の目的を達成するために必要な事業	主たる活動地域内 ・渡波小学校評議員定例会議 ・渡波中学校区協働教育協議会 会会議 ・鹿妻小学校クラブ活動サポート 石巻市内 ・らいつコンソーシアム協議委員会 ・NPO法人こどもにやさしいまちづくり理事 ・らいつコンソーシアム協議委員会 ・いしのまき市民公益活動連絡会 理事	4/1～3/31 年20回程度	石巻 市内	田中 田中 千葉、平井 田中 田中 田中 田中	-	781,980

3 事業実施体制

(1) 会議に関する事項

理事会の開催：4回

(2) 運営体制

運営に関わるスタッフは以下の通り。

代表理事：田中雅子

常勤スタッフ：榎谷和子（事務局長、理事）、塩田恵利子（育児休暇）、
千葉拓己（フリースクール/プレーパーク担当）
佐藤和幸（プレーパーク/フリースクール担当）

非常勤スタッフ：平井希美枝（未就学児・プレーパーク・広報担当）

アルバイト：阿部良子（事務アルバイト）、田畑つばさ（未就学児担当）

(3) 会員

①正会員 14名 前年比2名

②賛助会員 40名（新規7名）

③子ども会員 0名

(4) 地域社会や他団体との連携について

石巻市福祉部子育て支援課、石巻市都市計画課、石巻市地域協働課、宮城県東部児童相談所、虐待防止センター、石巻市社会福祉協議会、石巻市立渡波小学校、石巻市鹿妻小学校、石巻市渡波中学校、公益社団法人 3.11 みらいサポート、NPO 法人ベビースマイル石巻、NPO 法人 TEDIC、NPO 法人にじいろクレヨン、NPO 法人こどもにやさしいまちづくり、一般社団法人プレーワーカーズなど連携団体は多数